

去勢

左手の中に小さな画面がある

(時間は有効に使うべきだ)

春のような陽射しが街を包んでいる

光が壁を遊び回っている

ガラスに映る人並み

あらゆるシステムを網羅した画面がある

(目をそらせるな、見逃すな)

今や何のためでもなく

ひたすら食い尽くすべく増殖されたもの

空間というものの存在意義は既に消滅している

脳だけが認識して居れば事足りる

不協和音に満ちた創造物を包む大気

それぞれの諧調と色彩

旋律に取り囲まれた現在空間

代替機能をふんだんに兼ね備えた多重化平面

(面倒なのは真っ平だけれど、何も無いのはつまらないだろう?)

焦燥を煽り立て分断を促す

速度超過した非生産的な競争——強迫

敗北とは異なる地点にある諦念

傾いた陽光の枯葉のような黄金色

その彼方、遥か向こうへの信仰

私の「機能」は誰に奪われたのだろう
どこへ落としてしまったのだろう

人間であることなど不要であり、捨て去ればよい
永遠への道は、そこへと続いている

爆発的繁殖から凋落への暴力的転換
御前を巻き添えにするしかあるまい

幸福と対極にある生を抱く——
滅び去る昇天の陶醉
奪われること無き自由

萎びた社会などどうでもよかろう
全てを委託することが可能なのだから

私が私であるかどうかは分からない
この左手の中の世界においては・・・

(2014.2.16)